

上越教育大学研究プロジェクト 終了報告書（若手研究）

研究代表者 所属・職名 上教大附属中 教諭
氏名 入村 文子
 研究期間 令和2年度

研究プロジェクトの名称	A I 時代を主体的・共創的に生き抜く生徒の育成をめざして ～自己調整，創造性，人間性に着目して～
研究プロジェクトの概要	<p>当校の音楽科では，これまで音楽表現の中でも特に合唱に力を入れてきた。仲間と共に合唱をすることで，音楽科としての学びはもちろん，仲間作りとしても大きな役割を果たしてきた。今年度は，感染症拡大防止のために，音楽科の学習活動への工夫が必要となっている。様々な制約がある今日，生徒が仲間と共に自己表現できる場の一つとして，学校だからできる音楽表現活動の充実に重点を置く。具体的には，様々な安全に配慮しながら器楽による表現活動に取り組む。これにより，生徒の表現活動の幅が広がり，仲間と共に器楽合奏を通じてアンサンブルする楽しさを，実感を伴って味わうことにつながる。当校の特色の一つである一人1台 iPad を活用しながら，自分たちの器楽合奏を客観的に見つけ，修正し，新たな課題を見付け出す学びのサイクルの中で自己調整の力の発揮が期待できると考えた。</p>
<p>研究 成 果 の 概 要</p> <p>※申請時にチェックした「取組課題」との関連とその成果も明記すること。</p>	<p>音楽科の学習では，生徒が仲間と共に表現する場を取り入れた学習活動を再構築し，その活動を通して，音楽的な見方，考え方を発揮していけるようにした。また，学習活動を総合的な学習の時間のカリキュラム（当校では「T&Q（探究）」という領域名で実施）の中に関連付け，進んで他者と関わりながら音楽活動を進め，生徒の音楽を愛好する心情を育むことをねらった。</p> <p>【第2学年，第3学年】</p> <p>「つくりあげようオリジナルバンド！楽しもう！音楽！」</p> <p>普段親しんでいるJ-POPの曲について，音楽の要素がどのように関係し合い，雰囲気を作り出しているのかをつかんだ後，1学級を4つのグループに分けて，それぞれのグループ毎に演奏する曲を決めた。そして，旋律や和音を担当する鍵盤楽器，リズムを担当するパーカッション等を決めて，4グループがローテーションをしながら器楽合奏に取り組んだ。</p> <p>どのように演奏にアレンジを加えるか話し合いながら，合奏を重ね，ボーカルも付けて学級で発表会をした。</p> <p>新しいドラムセットが届き，生徒たちはより生き生きと器楽合奏に取り組んだ。また，拍の流れの良い歌唱にドラムセットを加えて合唱を行い，感染症対策を講じながらも，生徒は仲間との合唱に楽しむことができた。学校だからできる音楽表現の経験は，自己調整への意識を高め，仲間を思いやり，人間性の涵養につながることから，当校の研究の推進にとっても，大変価値がある活動となったと考える。</p>
研究 成 果 の 発 表 状 況	ICT を活用した器楽合奏，音楽活動として音楽教育研究会にて発表
学校現場や授業への研究成果の還元について	器楽合奏だけでなく，歌唱や吹奏楽の演奏でも音楽的な見方・考え方を発揮する姿が見られた。今後も生徒の創造性を発揮させながら活動を進め，人間性の涵養につなげたい。